

行政視察報告書

行政視察の結果について、下記のとおり報告します。

令和8年8月5日

光市議会議長 森戸 芳史 様

議員 早稲田 真弓

記

- | | |
|---------|--|
| 1 調査年月日 | ①令和8年7月14日（火） 13：30～15：00
②令和8年7月15日（水） 10：00～12：00 |
| 2 調査市等 | ①静岡県吉田町
②神奈川県海老名市 |
| 3 調査結果 | 別紙のとおり |

調査結果①

日 時	令和 8 年 7 月 14 日（火） 13：30～15：00	
調 査 市 等	静岡県吉田町	
調 査 事 項	リーディングDXスクール事業	
説 明 者	教育委員会学校教育課指導主事 平井奉子氏 等	

吉田町の概要

吉田町（よしだちょう）は、静岡県の中部に位置する町で大半が大井川と坂口谷川に挟まれた平野部で、湯日川や大幡川が駿河湾に面する吉田漁港に注いでいる。人口は 27,750 人（2026 年 7 月 1 日現在）であり、東京、名古屋、大阪といった大消費地の間に位置し、東名高速道路吉田 IC を利用した製品輸送が比較的便利であること、更には、大井川に沿って広大な土地を確保しやすいこともあり、企業、特に製造業の立地に適している。

リーディングDXスクール事業について

<吉田町のGIGAスクール歩み年表>

令和 2 年	1 人 1 台端末・校内 LAN 整備完了。Google Workspace for Education を全校導入。教育の情報化アドバイザー・信州大学教育学部佐藤和紀准教授
令和 3 年	ICT 支援員配置。授業でのクラウド活用が本格スタート。教員研修を重点的に実施。
令和 4 年	令和 4 年「全教職員研修会」スタート。全教職員チャットスペース開設。学校間の壁を越えた学びが始まる。
令和 5 年	リーディング DX スクール事業指定校として研究推進。校務 DX も推進。「とりあえず、やってみよう」
令和 6 年	ICT 活用指導力 99.2%達成。子供も教職員も個別最適。「形」はそれっぽいが、本当にこれでいいの？
令和 7 年	「吉田町小中学校生成 AI 利活用ガイドライン」作成。ICT 教育アワード優秀賞受賞。学校情報化認定：先進地域・4 校共に優良校（再認定）情報活用能力をもう一度考えよう。個別最適という名の自分勝手になっていない？コミュニケーションとは？

※吉田町が特別早期にリーディングDX事業に取り組んだわけではない。

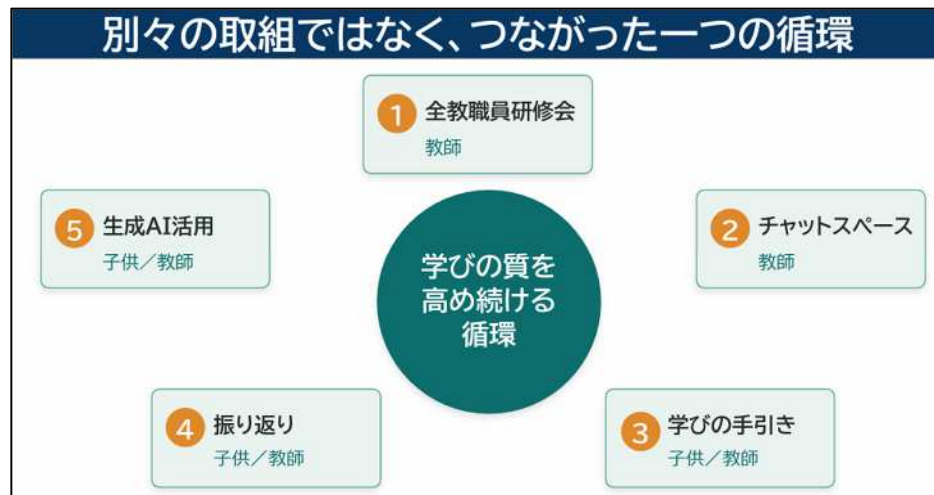
国のGIGAスクールの歩みと平行して進めている。

<リーディングDXスクール事業>

GIGA端末を活用する全国の学校が実践できる事例を創出するために、小中高等学校約 200 校を指定し、GIGA端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェア

とクラウド環境を十全に活用した効果的な教育実践を創出・モデル化し、情報活用能力の育成を図りつつ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や校務DXを推進し、地域や校種を超えて全国展開することで、全国すべての学校でICTの「普段使い」による教育活動を更に推進する。

<吉田町リーディングDXスクール事業の特徴>



①全教職員研修会

- ・令和4年度から実施
- ・各学校（4校）に全教職員が参集→学校を越えて、実践を見て語り合う
- ・研修会のDX化→教師自身が「学習者」になる

②全教職員チャットルームの活用

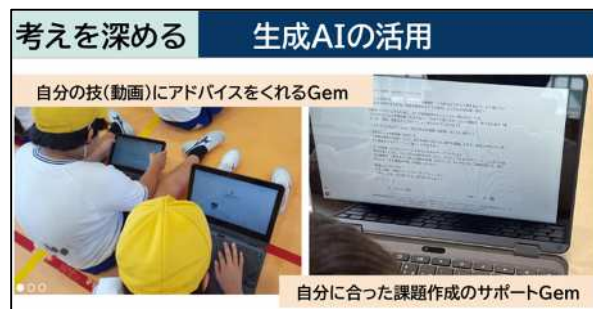
- ・校種間・役職間等の壁を払拭
- ・情報伝達の高速化
- ・学びの日常化

③学びの手引き→ラーニングガイド

④振り返り→次につなぐために

⑤生成AI活用

- ・AIを賢く使う「プランナーの心得」→“うのみにしない、” “デザインで伝える、” “機能を見せる、” “情報源をチェック”



実践は、全てつながっている		
実践	役割	育てたい姿
全教職員研修会	町全体で方向を共有する	教師が学び続ける
全教職員チャットスペース	日常的につながる	実践が孤立しない
学びの手引き	子供が見通しをもつ	自分で学びを進める
振り返り	学びを次につなげる	自分の学びを調整する
生成AI活用	考えを広げ、深める	情報を吟味して使う
目指すのは、「端末を使う町」ではなく、子供も教師も学び続ける町		

実践は、全てつながっている	
師 教師の学び	子 子供の学び
・ 研修会で、学びの方向を共有する ・ チャットで、日常的につながる ・ 実践を振り返り、次に試す ・ 生成AIで、準備や省察を支える	・ 手引きで、学びの見通しをもつ ・ 端末で、集め・整理し・表現する ・ 振り返りで、自分の学びを調整する ・ 生成AIで、考えを広げ・確かめる
「自分で学び続ける力」を子供に求めるなら、まず大人が学び続ける姿をつくる	

<質疑>

Q. ICT機器操作が苦手な教員への対応はどのようにしていますか。

A. ICT支援員を週3回導入している。ICT機器が苦手な教員にはチャットでステップを利用することから始め、難しい操作を強要せず徐々に慣れてもらい覚えてもらう。

Q. 取組みにより生徒や教職員はどのように成長、変化していききましたか。

A. 生徒も教職員も一人一人に合ったICT機器の使い方を学習し、学び方と働き方が変化している。

<所感>

公立小中学校4校が一体となり、リーディングDX事業に取り組んでおり、全教職員が研修会に参加していることが素晴らしいです。また、1人1台の端末を取り入れた際に、「親子体験会」を実施し、保護者の理解を求めていることもその後の生徒のICT活用推進につながっていると思いました。

GIGAスクール事業がスタートしたときから、研鑽を続けていることにより、子供も教職員も一人一人違うことを理解し、受け入れ、教育の方向性として「端末を使う町」ではなく、「子供も教師も学び続ける町」というコンセプトを持っていることが何より重要だと感じました。これにより、今後ICT機器やAIなどがいかに進歩し変化しても、それらを使いこなせる人材が育成されると思われます。

本市においても、学び続ける人材育成を目指してほしいと願います。

調査結果②

日 時	令和 8 年 7 月 15 日（水） 10：00～12：00	
調 査 市 等	神奈川県海老名市	
調 査 事 項	海老名市立図書館	
説 明 者	教育部学び支援課 永田 祥子氏 等	

<海老名市の概要>

海老名市は、神奈川県中部の県央地域に位置する市で、東京から 50km（鉄道で約 1 時間）及び横浜から 20km 圏内にあり、人口 142,183 人（令和 8 年 7 月 1 日現在）、相模国分寺跡等を有する歴史の街である。日本の高速道路のサービスエリアでは有数の規模を持つ海老名サービスエリア（東名高速道路）があることで知られる。2016 年には海老名駅は一部のロマンスカーの停車駅となり、2021 年にロマンスカーミュージアムが開業した。また、駅周辺には複合型商業施設「ViNAWALK」や「ららぽーと海老名」があり、近年、海老名駅前ではマンション建設が積極的に行われており、横浜・東京のベッドタウンとして注目を集めている。同時に市内には多くの田園地帯を抱えていて、伝統的な農業緑地と都市住宅が共存している市でもある。

<海老名市立中央図書館リニューアルへの流れ>

昭和 59 年 11 月現建物完成、平成 26 年 12 月改修工事着工、平成 27 年 10 月リニューアルオープン。

子どもの読書離れや若者の活字離れ、利用率の低迷、施設の老朽化などの課題があり、新たな図書館づくりに向け先進事例の調査・研究、指定管理者制度導入による民間能力の活用について検討し、課題解決に向け、民間のノウハウやアイディアを取り入れ、既存の図書館の枠にとらわれない図書館としてリニューアルと指定管理者制度導入を決定した。指定管理者の公募時には、従来の図書館業務に加え、ソフト面では「市が認識している課題に対する業務内容や経費」「新たな図書館サービス」、ハード面では予定している中央図書館の改修（老朽化対策、設備更新等）を提示し、「新たな改修計画」に関する提案を求めた。

<海老名市立中央図書館リニューアル後の状況>（※回収前後の比較）

	改修前（平成 26 年 10 月）	改修後（平成 27 年 10 月）
蔵書数	約 30 万冊（うち開架約 12 万冊）	約 31 万冊（うち開架約 20 万冊）
席数	120 席	296 席（428 席テラス席含む）
図書館エリア	1 から 2 階、地下（約 2,450 m ² ）	1 から 4 階、地下（約 3,600 m ² ）
来館者数	32,382 人（1 日平均約 1,045 人）	78,862 人（1 日平均約 2,544 人）

<海老名市立中央図書館 フロアガイド及び各階の特徴>

4F	国内・海外絵本/自動読み物/図鑑/ 学習漫画/大型本/紙芝居/児童雑誌	子どもに特化したフロア 1階からの直通エレベーター 新設、遊具を備えたテラス
3F	新聞（過去1ヶ月）/歴史郷土/大型地図/教育 語学・参考書/医療・看護/技術/法律/産業/IT	学習席増加、音雄環境に配慮し カーペット張り
2F	料理/旅行/住まい/美容・健康/趣味/AV 資料/ 人文/自然科学/アート/建築/ファッション/文学	吹き抜け両面に書架設置 電源付き閲覧席
1F	新着本/フェア/新聞（当日分）/雑誌/ビジネス 児童一般書/ティーンズ/多読・洋書 蔦屋書店/スターバックスコーヒー	カフェ・書店の併設 自動貸出機（セルフPOS）
B1	文芸/文庫/ノンフィクション/コミック/CD ブ ック	閉架書庫から閉架書架へ 大人の空間をイメージ

<質疑>

Q. 中央図書館の改修工事について期間や費用について教えてください。

A. 工事期間は平成26年12月～平成27年9月の約1年、工事費は約10.6億円。

Q. 様々なイベントについて、主なものや人気のイベントをお示しください。

A. プラネタリウム見学会、英語でおはなし会、静かな音楽会など。



<所感>

とても魅力的な図書館で、一日ここで過ごせると感じました。

指定管理者に改修の老朽化対策、設備更新を提示しただけでなく、新たな改修計画や利活用の提案を求めたのが成功の要因だと思います。もともとあるものを活かしながら、新たなサービスが展開され、多くの人が集うにぎわいの拠点となっていました。

特に、子ども連れ専用のエレベーターや遊具を備えた子どもに特化したフロアがあり、周りを気にすることなく子どもと一緒に図書館を利用できることに感動しました。

一方で、海老名市は本市より人口も多く都会であり、本市に同じ図書館を当てはめるのは困難であるとも感じました。本市の図書館はどのようにあるべきか、今後も引き続き調査・研究していきたいと思っています。